

風とともに生きる木々

く子づくりは
風が頼りく

石狩市の防風林に生育する高木種は30〜40種、このうち半分は「風媒花」。本数で言えば、直径30 cm以上の木のおよそ7割に当たります。

風媒花とは、花粉を風に運んでもらうタイプの花をいいます。これに対して、花粉を虫に運んでもらうタイプは「虫媒花」です。

南の地方の樹林では虫媒花を持つ樹種が多いのに対し、北国では風媒花を持つ樹種が多いのが特徴です。

なぜ風に花粉を運んでもらうタイプの木が北国では多いのでしょうか。それは、木々が寒い冬を過ごすために落葉することや、早春に雨が少なく、風が強い気象条件にあることが大きく関係していると考えられています。

気温が上がり始める早春、葉が開く前の林の上部では、木々の花粉は、葉に遮られることなく、強風に吹かれて飛ばされます。雨の少なさは、花粉が雨に洗い落とされるのを防ぎます。

また、風は花粉を運ぶ先を選ぶではなく、風は花粉を運ぶ先を選ぶのではなく、同じ種類の木が周囲にたくさん生えているほうが、花粉は簡単に目的地（同種別株の雌しべ）に到達することが出来ます。

北国の寒冷な気候下では、生育する樹種は少なく、ひとつのまとまった林に同じ樹種がたくさん生育します。このことも、木々が

北国の林で風媒花を付けることに都合がいいものと考えられます。シラカバに代表される風媒花樹木の花粉の飛散は、時に私たちをアレルギーで悩ますやつかいものですが、厳しき残る早春の環境に適応して子孫づくりに励む、木々の生活の一コマであることも忘れないでください。

(内藤華子)



5月の防風林

林下の草本は早々に葉を広げていますが、上層木はまだ広げていません。主な樹種であるハンノキ・ハルニレ・ヤチダモ・ミズナラは、早春からこの時期までに咲く風媒花です。



シラカバの花(4月下旬)
垂れているのが雄花、上を向いているのが雌花。



ハルニレの花(4月下旬)
色は黒っぽい赤。

■文化財課 ☎72-6123

✉bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp

■いしかり砂丘の風資料館 ☎62-3711

✉i-museum@bz01.plala.or.jp

■石狩浜海浜植物保護センター ☎60-6107(冬期 ☎72-3240)

✉ihama@city.ishikari.hokkaido.jp

併せてご覧ください

春先の木の花については、いしかり博物誌第31回でも紹介しています。

http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/hakubutushi/ha_031.htm